

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実
施策 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造
基本事業 文化・歴史遺産の保存と継承

事業名 郷土資料館企画展開催事業 [0884]

部名	教育部	事業開始年度	平成22年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果		
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 市民	手段 (事務事業の内容、やり方、手段) 1.郷土資料館収蔵資料を中心とした企画展を開催する。 2.未公開資料を積極的に活用し、市民に多くの郷土資料を紹介する。 3.展示資料の追調査等を実施することによって、資料データの充実を図る。
	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 郷土資料館収蔵資料の公開を通じて、市民に郷土の歴史・文化に関心を持ってもらい、さらにはふるさと意識の醸成を図る。	

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	市民	人		122,138	121,705	121,705
対象指標2						
活動指標1	企画展開催数	回		1	2	2
活動指標2	展示資料点数	点		308	86	100
成果指標1	企画展入場者数	人		1,653	1,451	500
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	1,881	96	144
正職員人件費 (B)		千円	0	4,030	2,408	2,428
総事業費 (A) + (B)		千円	0	5,911	2,504	2,572

費用内訳	
23年度	需用費 96千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始
背景

事業を
取り巻く
環境変化

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

市民からの寄贈品や発掘調査で発見された資料など、文化財を保護することは市の役割であり、収集・調査した成果を市民に公開することも重要な役割である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

基本事業である「文化・歴史遺産の保存と継承」を市民に促す手段として、文化・歴史を物語る資料を公開することは基本であり、当事業の基軸である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

23年度企画展では、夏季と冬季の2回、収蔵品を資料館ロビーにて無料で展示公開し、22年度特別展の入場者に近い人数の市民に郷土の歴史・文化を学習する機会を提供することができた。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

郷土資料館には、企画展を行う十分なスペース・什器等が無く、また人員も限られていることから、22年度企画展を上回る成果を見込むことは難しい。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由
・
根拠は？

必要最低限の予算等で遂行していることから、コスト削減は難しい。